

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	50	学校名	静岡県立島田工業高等学校	校長名	飯田 龍太郎
------	----	-----	--------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的な生活習慣の確立、規範意識や社会性の育成を通して、人間力の基礎を築く。	登校指導をはじめとする日常の指導を通して、生活習慣を確立させる	1学期1日当たりの欠席人数 数学年平均2.3人(前年3.1人 0.8人減) 2学期1日当たりの欠席人数 数学年平均3.6人(前年4.7人 1.1人減) 学校生活アンケート(生徒)1 98.9% 学校生活アンケート(生徒)2 96.7% 学校生活アンケート(生徒)16 88.4%	A	年間の欠席者の推移を見ると1、2学期ともに前年よりも欠席者の人数が減少している。保健部と連携し、換気等を適切に行い、テストの欠席者を減らすとともに日々の欠席者も減らすことができるように継続して呼びかけを行う。毎日の朝読書、朝SHR時の取組状況・出欠状況を学年(正副担任、学年主任)で確認した。SHRで伝えるべき「人間力の基礎を築くためのメッセージ」を共有し生徒に伝えた。その結果、全体的に落ち着いた生活態度で過ごすことができた。インターンシップや修学旅行などを通じて時間の厳守や身だしなみを整えることをはじめ、自己管理の上での基本的な生活習慣の確立を図れた。
		遅刻者の年間平均が1日1人以内	1学期1日当たりの遅刻人数 数学年平均0.4人 (前年0.8人 0.4人減) 2学期1日当たりの遅刻人数 数学年平均0.6人 (前年0.9人 0.3人減)	A	全学年で1学期、2学期ともに1日当たりの遅刻人数が1人を下回っているからおおむね良好な状態である。生徒指導部による朝指導のおかげとも考える。特定の生徒が多く遅刻をし、それに対する指導が難しかった。通院や体調を見ての遅刻がほとんどであり、寝坊等の不注意による遅刻が少なかった。今まで以上に健康管理・自己管理意識を高めていきたい。
		交通ルールやマナーを守り、自分の身は自分で守る意識を涵養する	自転車安全指導カード R6年度7枚 R7年度2枚	B	前年度と比較して減少していることや、過去を見ても大幅に減少している。自転車事故件数も3件と少なく、交通安全の意識は高い。

ア	基本的生 活習慣の 確立、規 範意識や 社会性の 育成を通 して、人 間力の基 礎を築く。	朝読書を通して豊かな感性を育む	12月時点で、延べ利用人数3,612人。貸し出し冊数1,252冊（一人平均2.5冊）	A	先生方のご指導もあって、8:30からの10分間は落ち着いた読書の時間となっており、一日の始まりとして有意義な空間だと感じている。ただ生徒一人一人の本への向き合い方にはまだ差があるので、コンビニ文庫をはじめ、生徒が手に取りやすく、興味を持てる本の紹介などに力を入れる必要がある。
イ	生徒を主体とした教育活動を推進する。	生徒会活動、地域活動、部活動等への積極的な参加を勧めるとともに、各活動において生徒が能力や関心に応じて主体的に参加できる場を増やす	学校生活アンケート（生徒）4 96.3% 自動車部エコラン大会2 大会出場、文化祭での 出展	A	六合文化祭への参加し、来場された方々に大変喜んでいただいた。また、ロボットアイデア甲子園へ参加し、優秀賞と敢闘賞をとることができた。 島田第五小サマースクールボランティアをはじめ、地域に関するボランティアに積極的に参加した生徒が多数おり、主体的に行動する生徒が多くなってきた。校内においても生徒会役員等に自ら立候補し、学校を活性化する活動に取り組む生徒が多かった。1学年では、島工祭の校内装飾に取り組む際に、「HR 対抗校内装飾選手権」と銘打ち、学年として企画を立て取り組んだ。
		生徒会が企画した事業の実施	学校生活アンケート（生徒）4 96.3%	A	文化祭や体育大会に積極的に参加できた。アンケートの結果も好評であった。次年度も続けていきたい。 体育大会、文化祭では各生徒が意欲的かつ主体的に取り組み、良い成果をあげられた。また、修学旅行の班別研修では各々が計画を立てて問題が起きることなく実施することができた。
		部活動加入率95%以上	部活動加入率93.1%	B	2・3年生は任意加入であるが、継続して部活動に取り組む生徒がほとんどである。 年度当初、部活動全員加入済み。その後退部手続きをした生徒はいない（学年会議で確認。ただし、実際に活動していない生徒はいるかもしれないが、手続き上は全員加入している状態である）。

イ	生徒を主体とした教育活動を推進する。	「他の部員と協力して部としての目標達成のために努力している」と答える生徒80%以上	該当するアンケート項目なし	B	学年としては部活動内で他の部員と協力して部としての目標達成のために努力せよとの指導は行っていないが、各部動ともに言われずとも実践している。
ウ	授業改善と学習習慣の定着に重点を置き、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、知識や技能を活用する力や思考力を育成する。	1人1台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、授業改善を推進する	<p>「教員は、授業を大切にするとともに、わかりやすい授業を行おうと努めている。」 85.8% (1.7%減)</p> <p>「教員は、ICTを取り入れた授業を行おうと努めている。」 80.5% (1.8%増)</p>	A	学校自己評価アンケートの生徒の回答において、80%を超えた。これは、ICTに関する研修を多く実施した結果、授業において1人1台端末を用いた授業の振り返りを行う先生が多くなり、AIを用いた授業なども行われたためであると考えられる。今後も校内研修の内容で取り入れていきたい。
		校内外で授業参観をした教員80%以上	授業参観週間の設定を行ったが、集計を十分にできなかった。	C	来年度は、授業参観週間で参観した先生方の人数を適切に集計する方法を検討する。
		「授業に主体的に取り組んでいる」と答える生徒80%以上	「あなたは、授業に主体的に取り組んでいる。」 93.4% (2.0%増)	A	先生方が生徒に対して目標を設定し、個々の生徒に寄り添いながら指導を行った結果、目標を達成できたのではないかと考えられる。次年度も継続していきたい。
		ゲーグルワークスペースなどの学習系クラウドサービスを授業で活用している教員80%以上	「教員は、ICTを取り入れた授業を行おうと努めている。」 80.5% (1.8%増)	A	生徒アンケートの回答において、80%を超えているため良好な状態である。今後も校内研修の内容に取り入れていきたい。NES端末をBYODに繋げたことにより、約4割の先生が活用している。

ウ	授業改善と学習習慣の定着に重点を置き、生徒の基礎学力の定着とともに、知識や技能を活用する力や思考力を育成する。	各教科で適切な量の課題を課し、学習習慣を定着させるとともに、学習に主体的に取り組む生徒を育てる	「あなたは、授業の内容がよくわかっている。」 86.6% (2.7%増) 「あなたは、各教科の課題や提出物をしっかり出している。」 96.1% (0.3%増) 「家庭学習を毎日60分程度行っている。」と答える生徒50%以上 24.8% (1.0%減)	B	調べ学習、発表などいくつかの方法を試して授業を進めたが一部の生徒に後ろ向きの姿勢が見られた。また、資格取得のための基礎知識の定着を図るため、課題を与えた。その結果生徒自ら取り組んだ。 普通科目においては、小テストを実施することで、学習習慣を定着させることができた一方、教科として課題を課さず、授業ごとの小テストや章末テスト等の実施を通して、継続的な学習への取り組みを促す教科もあった。 今後は、家庭学習ができるような体制、例えばGoogle クラスルームを用いた課題等も課していくことを目指したり、1週間前からのテスト勉強をきちんとできるように習慣化させる呼びかけを行ったりしたい。
		「課題や提出物をしっかり出している」と答える生徒95%以上	「あなたは、各教科の課題や提出物をしっかり出している。」 96.1% (0.3%増)	A	実習のレポートや授業の課題プリントなどをほぼ全員の生徒が期日までにしっかり提出できる、もしくは、提出物は100%提出させているという教科がほとんどであった。 ただし、課題を期限内に提出できない生徒や不備がある生徒が数人おり、その対応に課題を感じる。
		「学びの基礎診断」を実施し、基礎学力向上に活用する	GTZのDゾーン生徒の推移 3年生 46.7% (5.6%増) 2年生 32.9% (3.8%減) 1年生 25.0% (1.4%増)	C	Dゾーンの生徒全体的には、増加傾向にある。今後は、GTZを活用して進路適正などを分析するアプリを活用していき、主体的に取り組めるようにしたい。 「学びの基礎診断」実施の際に、事前課題であるOne Weekについて、HRごとに回収し学習状況を確認するなどして、学習を促した。その結果、One Week トライアルに取り組むことによって、成果に現れること、その成果が自分に還元されることを認知できた生徒が多くなってきたと感じている。

エ	全体への計画的なキャリア教育と個に応じた進路指導の両面から、生徒の進路実現を支援する。	進路説明会やLHR等を活用し、志を育む進路指導を推進する	進路ガイダンスや進路講話を実施、また企業説明会を本校にて7回実施した。	A	LHRを活用して、ライセンスによる「進路別進路相談会」、Futureしずおかによる「課外授業」を実施し、進路意識や職業観を高めることができた。 来年度も、複数回の進路説明行事を実施し、進路意識を高める予定である。
		職業研究やインターンシップを通じて、生徒の職業観を育成する	アンケート結果 97.1% インターンシップの参加、ホビーショー見学、企業見学、技術講習会の実施	A	進学を希望する生徒も職業観を身に着けることができた。 インターンシップでは全ての2年生が参加し、職業観の育成を達成できた。企業見学や産業界との交流事業では、生徒の専門的な知識を高めるとともに、進路に関する意識向上を図ることができた。
		進路検討会を複数回開催し、就職希望者や進学希望者への指導を組織的に行う	マネープラン講座や2年生向け進路説明会。進路ガイダンス、進路講話、企業説明会などを本校にて7回実施した。 選択科目において、先生方の協力のもと進路を見据えた選択ができ、希望通りの選択科目が開講できた。 進路指導、面接指導の実施	A	学科、教科、学年等と協力し、適切に選択科目を運営できている。 しかし、選択科目の説明内容で教務と教科での意思疎通ができていない部分があるので統一した見解で説明会を実施したい。 学年全体としての進路検討会は未実施であるが、個々の生徒への進路対応は各担任を通じて関係職員へ連絡を行っている。機械科として、HR担任と協力し、個に応じた進路指導や面接指導を計画的に実施し、生徒の進路実現につなげることができた。 HR担任と情報交換を密に行うように心がけ、工業科においても情報を共有した。
		公務員希望者の合格率 80%以上	合格率 80%	A	7名が市役所や県庁から内定を頂いた。
		大学・専門学校進学希望者の第一志望校合格率 90%以上	結果 97.2%	A	国公立大に本年度も1名合格した。また指定校推薦、総合選抜型入試にて他の生徒も合格した。 工業科もHR担任と協力し、個に応じた進路指導や面接指導を計画的に実施し、生徒の進路実現につなげることができた。

<p>積極的な情報発信や、保護者・地域・産業界と連携した教育活動を推進し、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>学校通信、公式ホームページ、公式SNSを活用した学校広報活動を推進する</p>	<p>島工通信年6回発行 X、HPの月平均配信件数は、13.3件(20件減) 図書日より12月までに8回発行。</p>	<p>B</p>	<p>掲示板等で担当者がX、HPの更新件数などを全体で共有できていた。しかし、配信回数は伸び悩んだ。HP担当等の役割分担が機能していない部分もあるので、学校広報活動の運用は十分に検討する必要がある。Instagramの活用も検討するべきである。 HPを通じて、図書館だよりを発信している。親しみやすく、図書館に足が向くような内容を目指して今後も続けていきたい。 必要なタイミングで、行事の連絡事項、学校の様子などについて、保護者に対し、学年よりC-ラーニングを配信した。また、Xの学年投稿も積極的に行った。</p>
	<p>体験入学や中学校説明会において、中学生に工業高校の魅力をアピールする</p>	<p>体験入学アンケート 工業に興味を持った回答 中学生 68.1% 保護者 67.5% 工業の内容を知った回答 中学生 72.5% 保護者 75.0%</p>	<p>B</p>	<p>体験入学の記述アンケートからも本校に対して好印象のものが多。体験ショップを6にしたことで体験時間は昨年より増えたが、受け入れ人数の制限により体験できない場合もあった、次年度は受け入れ人数の拡大についても検討したい。 体験入学や中学説明会では、生徒自らが各学科の魅力や自分たちの体験を発表し、本校の良さを来場者にアピールすることができた。</p>
	<p>校外で学習の成果を発揮し、地域との交流を積極的に行い、生徒の姿を多くの方に見ていただく</p>	<p>六合文化祭へ生徒3名(情報電子科2名・建築科1名)が参加した</p>	<p>A</p>	<p>六合文化祭への参加し、来場された方々に大変喜んでいただいた(情報電子科・建築科)。 ロボットアイデア甲子園へ参加し、優秀賞と敢闘賞をとることができた。</p>
	<p>保護者に情報を発信し、連携を深める</p>	<p>学校生活アンケート 55.7%の保護者がPTA総会、学級別懇談会へ出席してよかったと回答 32.0%が「わからない」と回答</p>	<p>B</p>	<p>保護者への連絡はC-ラーニングを多く活用し、PTA総会資料はPDFとして事前に一斉配信をした。 学校生活アンケートの自由記述の「保護者連絡・広報」においてもC-ラーニングでの情報発信は好印象であると感じた。</p>

様式第3号

カ	積極的な情報発信や、保護者・地域・産業界と連携した教育活動を推進し、地域に信頼される学校づくりを推進する。	地域の企業・大学等を招いて出前授業を実施し、各科における学びを深める	自動車技術講習会, 産業見学会の実施	A	機械科では、トヨタ自動車による自動車技術講習会や矢崎ものづくりセンターの見学会の実施など、新しい技術に触れたり、知識を深める事業を行い、生徒の興味関心を高めたりすることができた。情報電子科ではIT企業への見学を実施することができた。電気科では、2年生静岡県電業協会による出前授業や名古屋工学院専門学校 石原先生による講演を実施した。
		家庭・地域との連携により生徒の防災意識を高める	学校生活アンケート 66.9%の生徒が「危機管理意識が向上している」と回答 昨年度より微増した	B	本年度はインフルエンザの流行により机上での避難訓練となった。次年度は避難訓練とは別に防災意識を高めるための「防災講話」を行うことを検討している。また、個人の防災食料を見直し、次年度より改善を行う。
キ	生徒が安心・安全に授業や諸活動に取り組める環境を整えられよう、教職員の資質向上に努める。	職員の不祥事を根絶する	毎月、職員会議の後に実施した。	A	毎月の職員会議の他に6月に教職員各自で、不祥事根絶に関する研修、12月に不祥事根絶に関する動画視聴による研修を実施した。
		悩みを抱える生徒や特別な支援を要する生徒を把握し、必要な対応を行う	各学期と長期休業明けにアンケートを実施した。教育相談のチーム研修を行った。	A	アンケート結果を受けてこちらからアプローチすることで、悩みを抱える生徒の早期発見につながった。カウンセラーから生徒対応のアドバイスを受けても、なかなか該当生徒の担任は負担が減らないのが課題である。(担任が生徒対応にあたるが多いため)
		校内で保有している情報を適切に管理し、セキュリティ事故を防ぐ	セキュリティ事故0件	A	情報担当の先生方のおかげで特にトラブルがあった事実の報告は受けていない。また、セキュリティに関する校内研修も実施できた。
		自然災害や校内での事故などへの初期対応の知識や技術を身に付ける	危機管理マニュアルの更新	B	危機管理マニュアルの更新を行い、今年度からC-ラーニングを用いてデジタルデータを保存し、いざという時に確認しやすいよう工夫した。
		AEDによる救命や応急手当に関する研修 年1回	医師と看護師による研修を行った。	A	医師と看護師により、具体的なけがなどにおける対応など、例年以上により実践的な内容になった。

ク	組織的な業務改善を推進し、生徒に向き合う時間の確保、教職員の心身の健康保持に努める。	校務にICTを活用し、ペーパーレス化を進める	分掌会議資料PDF化	A	分掌会議は、クロムブック持参で行い、資料はクラスルームで配信している。 教材や振り返り、通知などの多くを、ペーパーレスにできた。 クラスルームなどを活用し、授業で使用するプリント類は最低限のものとしている。
		職務内容・分担の見直しやC-ラーニング等のICTの活用により業務改善を行い、働きやすく、休暇取得しやすい環境を整える	C-ラーニングへの移行が完了した 百問繚乱の活用が進んだ	A	C-ラーニングでの活用で生徒の出欠確認をはじめ、会議等の資料提供することができた。 先生方の百問繚乱ソフト(デジタル採点ソフト)の活用が進み、採点等の業務が効率化されている。担当者も適切に運営をしているので、特にトラブル報告はない。
		夏季休暇取得率100%	夏季休暇取得率98.4%	B	9月に夏季休暇を取得していない教職員に対して、10月末までに取得するよう促したところ、1人を除いてほとんどの教職員が運動部の顧問も含めて取得できていた。次年度は周知し100%を目指す。
		外部の専門人材との連携・協働に努め、教員の勤務時間削減を進める	文化の匠1人部活動外部指導者2人	B	外部人材を配置することにより、教員の多忙化解消、生徒の活動機会の確保につながった。
ケ	公費の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を充実させる。	教育ニーズに応じた予算の執行により、教育用備品・施設・設備の整備を進める	学校評価アンケート(生徒) 25 85.8%→86.8%	A	「安全で快適に生活できる施設・設備が整っている」と答える生徒85%以上を達成できた。来年度は、静岡県全体の財源不足が明らかなか中で、いかに限られた予算の範囲で、効果的に執行し、生徒の学習環境を充実させるかが、課題となる。
		法令を遵守し、正確で迅速な会計事務処理を行う	監査での文書指摘事項ゼロ	A	文書指摘事項ゼロを達成した。人事異動による事務部の陣容が変化する中で、いかに緊張感を持続して業務に従事できるかが、課題となる。